



小橋敏弘の ニッポン大好き!Hello Japan ヨーロッパ在住40余年、外から見ていた日本!

Vol.24 スイスの普通の村 Escholz matt

この村に築175年ほどの古民家を購入し住み始めてはや四半世紀がたちます。日本と違いくちには多くの若者もまだ住んでおり、村の過疎化などほとんど耳にしません。電車で40分ほどのところに位置するLuzernという街に通勤、通学する人を、朝晩、村唯一の駅のEscholz matt駅にて目にします。では日本のように若者が村を離れLuzernの街へ移住するかどうかどうもそうではないようです。村の若者のコミュニティは独特で、家業の略農を営む若者もいれば、大きな街LuzernやBernに毎日通勤通学をしている若者が多いのも事実です。

なぜなら筆者もこのEscholz mattに住みだしてから2002年から2020年の18年間は、毎朝晩、電車でLuzernの街へ通勤をしておりました。ちなみに日本と違ってローカル線です。で、4人席の椅子を独り占めできるくらい乗客数は少なく、妻の手作りのサンドイッチにコーヒを飲みながらの快適な通勤生活でした。

話ごとびましたが、朝晩の通勤電車の乗客の顔ぶれは多彩で、若い学生もいれば普通のサラリーマン風の乗客いたり、秋の気候の良い時期には幼稚園児や小学生が先生に引率されて「Luzernの街へ遠足のような風景も良く目にしました。幼少のころからの社会見学を通して、過疎の田舎生活の良さを間接的に教えているようにも思えました。

さて前置きがながくなりましたが、今日のメインテーマはこの村唯一の介護老人ホームについて、日本の読者の皆にちよと詳しくご紹介したいと思います。前回のコラムでスイスの介護施設使用料金がいかにか高額かをご紹介しました。物凄く読者からの反響でした。これではおちおち親父を老人ホームへ入居させられないなあという感想もありました。では今日は、その介護ホームの一施設に関してご紹介します。

これもスイスならではのコンセプトです。日本人の読者の方にはなかなか理解出来ない

いかと思います。このコラムを書いている筆者でさえ、当初はなかなか理解できませんでした。Escholz mattの介護施設ホームに隣接されているパークについて、そのコンセプトとその背後に意図されていると思われる趣旨を少しずつ、筆者の感じるがまま解説させていただきます。

施設の入居者数は100人にも満たない比較的小規模の養護老人ホームですが、施設の敷地の半分以上のスペースを憩いの場にとられています。ではその憩いの場とはどんなコンセプトなのか。



その憩いのパーク内には、周りの自然環境と調和されるグリーンの芝が多くしきつめられ、施設の正面玄関前に設けられている駐車場を含む喫煙スペースエリアでも、多くのグリーンの芝が上手く配置されています。憩いの中心は24時間いつでも利用できるオシャレなパークです。24時間と特に記しました通り、真夜中の暗い時間帯でも目に優しい照明がなされており、

車いす専用回廊も設置されています。その経路はパーク内を蛇行しながら散歩できるようになっており、ベンチ椅子も多く設置され、その施設を眺めながらフライトエリアが多いのには驚かされます。若いカップルの隠れスペースにも利用できるくらいです。これは余談ですが、そのパーク内には大きなスペースでウサギが飼われていたり、沢山の樹木、花が散歩道沿いに植林され、まさにフラワーガーデンそのものです。

加え、子供たち、特に入居者の孫たちが遊べるプレイエリアもちゃんと設置され、ちょっとしたミニテマパークと言った感じです。ここなら小さい子供は勿論、大人でもエンジョイ出来るそうです。

ではここから今日の最重要ポイント。

なぜここまで介護施設内のパークや駐車場に多くの予算をつぎ込むか。筆者が色々と考えぬいた答が、「施設に入居している老人の家族、メインのターゲットはお孫さん、曾孫さん。いかに施設まで足を運ばせるか」ではないかと言うことです。つまり入居者の子供たちは、結局のところ一辺倒の返事しかしませんが、若い孫たちは自分の気持ちのまま、入居者のおじいちゃんやおばあちゃんにぶつけてくるので、世間体など気にしない幼少の子供しか、人間としてのコミュニケーションはできない気がします。「汚いものは汚い、臭いものは臭い」と言えなくなる大人より、正直におじいちゃん、おばあちゃんと言語が出来る孫や曾孫との会話の機会を作るために、子供がまた来なくなるようなパークや、幅広い駐車スペースを作っているのではと察します。

加えて、筆者も当初、一日の大半を部屋で過ごしている入居者や四六時中入居者のお世話をしているスタッフのためにしては非常に非効率不採算性の象徴のような隣接パーク、その隠されたコンセプト、さすがスイスですね。

日本の老人ホーム経営者にも少しは見習ってもらいたいものです。日本のいくつかの介護老人ホームは、中央玄関を入るとまるで五つ星の超豪華なホテルの様なセレブション、そんなところばかりにお金をかけても、入居者のおじいちゃんやおばあちゃんが一番会いたがっている孫たちの興味を誘うわけがないと言う事を理解していないんでしょうかね。上っ面ばかり重んじる金儲け主義の経営者が多いのには、誠に腹立たしさを隠せません。

profile 小橋敏弘

年齢、もうすぐ70歳。

1975年からヨーロッパ在住。その大半はスイスの企業にてサラリーマン生活をし、64歳からリタイア生活をエンジョイしています。

学生時代をイギリスで過ごし、大学卒業後はスイスに移住。孫6人に囲まれている爺さんです。

趣味は何にでも興味を持ち、最近ではChat GPTを駆使して、幅広い分野を勉強中。

母国語日本語を再勉強しながら、ドイツ語、英語も同時に駆使し、ヨーロッパ各国に住んでいる友達とコミュニケーションを取っています。

唯一、体を動かす趣味は、ここ10年ほど毎週一回ぐらいのペースでやっておりますCountry Line Danceです。



写真/筆者(右)と妻